

WUB世界大会開幕
きょう開

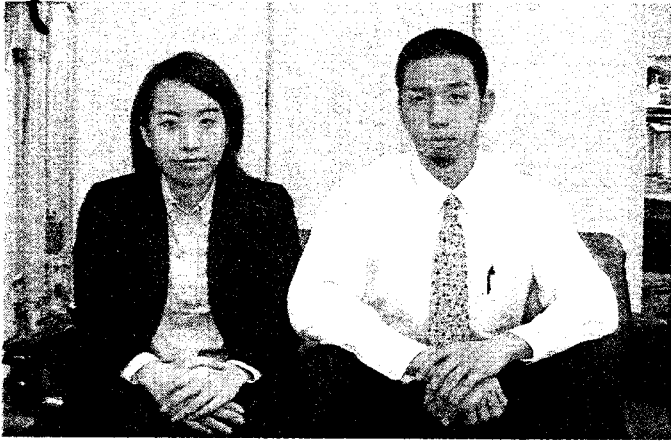
ビジネス発展へ

サミットが追い風に

「わずか三年間に海外含め十一の支部が設立された。ビジネスを始動させて、さらに発展させた。二十日開幕するWUB(世界ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)第四回世界大会に向け、同実行委員会は、十九日県庁で会見を開き、抱負を語った。一九九七年に設立されたWUBは、現在ケアンでも支部設立の準備が進められているほか、東京では在京の学生が集まってWUB学生支部の設立準備が進められるなど、広がりをみせている。

県庁で開かれた会見に、WUBへの思いを語った。WUB第四回世界大会に参加するため駆け付けた。南米、北米、中国、東京、大阪など十一の国・地域の代表が勢ぞろい。日本語や英語、スペイン語でそれぞれ

の集まりであるWUBは、広くて深い。誇り高く思う」と語った。中国支部の東浜永松支部長は「WUBを通して沖縄の若い世代が世界を相手に貿易できる環境をつくりたい」。前回の開催地のWUB北米(ロサンゼルス)のノーラン比嘉支部長は「温



WUB学生支部立ち上げに向けて準備を進めている「WUB STUDENTS」(仮称)の瀬川辰彦会長(右)、宮城朗子事務局長

学生支部立ち上げ

東京で設立準備大詰め

WUB(世界ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)の世界大会に併せ、東京では、学生支部「WUB STUDENTS」(ワブ・スチューデント、仮称)の設立準備が進んでいる。瀬川辰彦会長、宮城朗子事務局長(共に明治大学三年生)が中心となり、準備が大詰めだ。現在は会則を決めている段階で、設立も間近。学生支部の設立は、WUB東京の伊礼博事務局長の呼び掛けがきっかけとなった。瀬川会長と宮城事務局長らが都内の大学の沖繩出身学生に呼び掛けた。現在は三十人が集まり就職情報の交換や、ベンチャー企業との立ち上げを目指し、会員の学生の間で、メールによる情報交換をしているという。瀬川会長は、「今、学生のバイタリティーが注目されている。WUBのバックアップを受けて、問題意識を持って何かを始めようという人が集まってきてい

る。ただ県人が集まるだけの目的ではなく、真剣にビジネスを考える新しいタイプのウチナンチュ組織を目指したい」と抱負。また宮城事務局長も「学生支部の中で知恵を出し合い、いいアイデアが浮かべば、社会人たちが(WUB)のバックアップを受けてビジネスや人的交流をしたい」と語り、「実際にマーケティングを行い、ビジネスモデルを立ち上げ、来年の十一月の第五回WUB世界大会までに

は、会社設立の報告をした」と目標を掲げ、意欲的。また伊礼事務局長は「将来的には産学協同路線でネットワークを結びたい。われわれの世代は、六、七十代で、人脈などのインフラ整備をしているが、実際のビジネスを展開するのは、(学生支部の)彼らの世代だ。いいアイデアがあればバックアップしたい。WUB東京でも人材育成を含めて展開したい」と全面的な支援を強調していた。

二十二日には、金秀本社ビルで、WUB STUDENTSと、県費留学生、県内学生の約二十人が集まり、交流会を持つ予定。